

# 世界最小の大陸紀行 —Oz2001研修旅行—

東北電力(株) 土木建築部  
橋本 修一

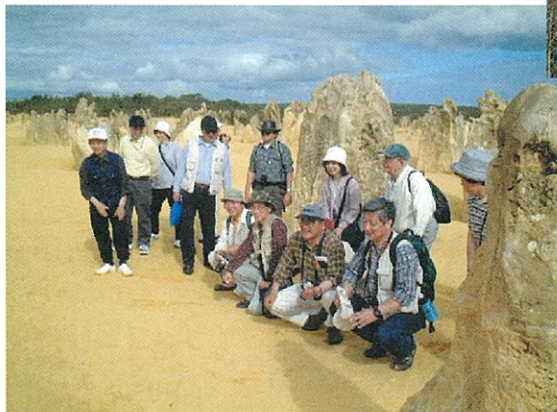


日本応用地質学会東北支部は、21世紀初年、下記の行程にて創立10周年記念行事として応用地質研修旅行(Oz2001。俗称Aussieの略記Ozにちなむ)を行ないました。参加者は田野支部長夫妻、大村副支部長夫妻ほか全21名(内、女性6名)、当地の晩秋・小春日和と飲み心地のよいワインに恵まれ、知的興味を満足させてきました。概略行程は次の通りです。

- 5月19日(土) 各地⇒成田⇒パース(西オーストラリア州)
- 20日(日) スワン川沿い探索(A班)、メケリング地震断層見学(B班)、石油事情講演
- 21日(月) パース北方Nambung国立公園(第四系石灰岩Pinnacles、ストロマトライト)
- 22日(火) パース⇒アデレード(南オーストラリア州、Penfolds Magill Estate訪問)
- 23日(水) アデレード近郊(Hallett Coveの氷河堆積物、エディアカラ動物群)
- 24日(木) アデレード⇒シドニー(オペラハウス、天文台ほか)
- 25日(金) ハンター地区視察(大露天掘り炭鉱、ハンターバレー)
- 26日(土) 市内視察(博物館等)、シドニー⇒成田
- 27日(日) 成田解散⇒各地

1999年5月、創立10周年記念として「ハンマーに頼らない自然観察」を大命題に、婦人同伴を原則としてオーストラリア研修旅行実施をアナウンスしました。

幹事5名からなる企画委員会には、同伴の女性陣にも無理がなく、飽きられず、かつ地質屋の本能的な好奇心も満足させ、さらに上質なワインも味わえるように…というほとんど実行不可能な訪問地、観察対象選定の課題が与えられました。度重なる調整の結果左記の行程です。詳しい内容は、研修旅行報告会の配布資料(冊子、CD付)に記載されていますが、ここでは、広大な大陸を早足で駆けぬけたにしては、多くの地



妖しげな形の石灰岩が林立するPinnacles



Oz最大のメケリング地震断層(33年前の露頭!)



質現象を興味深く観察でき、また、現地のエキスパートに親切な説明をしていただき、充実した旅の一端をご紹介します。

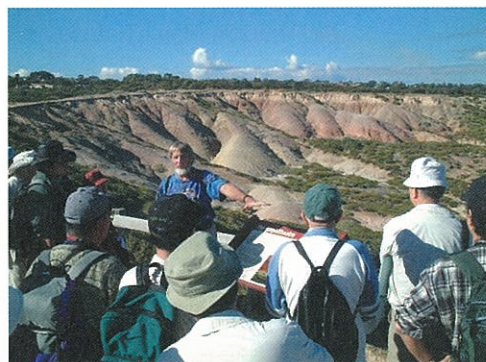
パース及び近郊: 第四系の石灰岩尖塔が林立するPinnaclesでは、成因の説明板に納得できずにあれこれ議論し、テチス海ならぬテチス湖に生息する少々しょぼいストロマトライトに生命のしぶとさを思い、安定大陸内で発生した33年前の地震断層が今なお自立している逆断層露頭を見て、日本とあまりに異なる気候条件との著しい差異に舌を巻きました。また、晩秋の冷たい潮風に吹かれながらも、南十字星の撮影に少年のような情熱を燃やしました。

アデレードの近郊: 2億年を越えて今なお、ピカピカと光り輝くペルム紀の氷河擦痕にデジカメのオートフォーカスピントが合わず苦勞しました。熱心に地質を案内してくれた66歳のクリス教授(フリンダーズ大学)の早足に感服しましたが、支部長のハーモニカ演奏で熱烈に返礼しました。エディアカラ動物群のくらげもどき化石を研究室で直接実習してくれたアデレード大学のジェンキンス先生の綻びた袖口には、研究者としてのひたむきさを感じました。

膨大な量の資源に恵まれた国Oz: パースでの石油探査の苦勞話を聞き、シドニー北方の広大な露天掘り炭鉱を見学し、改め



ペルム紀氷河によるピカピカの擦痕



熱心に案内するクリス教授



エディアカラ動物群の古生物学実習

